

# 「救急症例における経皮ヘモグロビン濃度測定値の検討」

## 医学情報の研究利用について

熊本大学医学部附属病院救急外来は、救急症例における経皮ヘモグロビン濃度測定値の検討を実施することになりました。調査対象となるのは、2016年2月1日から2016年7月31日までの間に、熊本大学医学部附属病院救急外来を受診された患者さまです。

本研究の目的は、経皮ヘモグロビン濃度 (SpHb) 測定という新しい医療機器の有用性を確認するものです。このヘモグロビン濃度は、本来血液検査でした判定することができず、痛みを伴う侵襲的な検査でした。しかしこの新技術が血液検査と同等に有用なのであれば非侵襲的に測定可能となり、患者さまの負担を軽減することができます。具体的な検討方法としては、診療録を用いてこの SpHb 値と血液検査で測定したヘモグロビン値を比較するというものです。また測定誤差を生じた場合、どのような患者さまでそれが起こる可能性があるのかも統計学的に検討します。

調査項目は、年齢、性別、発生状況、既往歴、検査所見、治療内容などです。これらのデータにおいて、すべての患者さまは匿名化され、お名前や住所などプライバシーに関する情報が外部に漏れることは一切なく、何らの負担が生じることもありませんのでご安心ください。データについては、研究期間中 (2016年9月から2017年3月) は、研究責任者のもとで厳重に管理され、研究終了後に紙媒体の資料はシュレッダーにて破棄され、電子データは匿名化した状態で完全に消去されます。また、今回の研究で得られた結果に関しては医学的な専門学会や専門雑誌などで報告されることがあります。

本研究の利害関係について、本研究は診療によって得られたデータを使用するため研究費を必要とせず。また臨床研究利益相反審査委員会の承認を得ており、今後の報告もあわせて利害関係の公正性は保たれます。

本研究の調査対象の患者様で調査に同意されない方はお申し出ください。

このお知らせは熊本大学医学部附属病院 救急・総合診療部の HP で公示を継続します。

この件に関しまして、ご質問などございましたら、下記 研究責任者に遠慮なくお尋ねください。

研究責任者

熊本大学医学部附属病院

救急・総合診療部

金子 唯

電話：096-373-5769 (代表)